



令和5年度 第2号  
常磐野小学校 校長室だより  
令和5年4月24日発行 文責 清川 秀一

学校教育目標  
つながり、深まり、未来をつくる子

GW が近づき、気温も随分上がってきました。運動場で遊ぶ子供たちの額にも汗が見られるようになっています。先日は授業参観・懇談会に多数ご来校いただき、ありがとうございました。子どもたちのはりきる姿や緊張した姿が見られたのではないかと思います。

さて、校長室だより第1号では学校教育目標について、お伝えしたところですが、変更については様々な考え方や情勢を考慮しながら決めました。その考え方の一つが、オックスフォード大学のマイケル・オズボーン氏の考え方で、氏は「AI によって、いまの仕事の5割がなくなる」と言っています。そのうえで、「いまの若者のうち6割が、いまは存在していない仕事に就く」というメッセージを出しています。オズボーン氏の予見が世界規模で衝撃を与えています。

それならばと思い、私の個人パソコンを使って、最近話題の「チャット GP」に「AI にはできない仕事は何ですか？」と聞いてみたところ、次のような回答がでました。

「AI にできない仕事は、以下のような特徴があるものです。

1. 判断や意思決定が必要な仕事
2. 創造的な仕事
3. コミュニケーション能力が必要な仕事
4. クリエイティブな問題解決が必要な仕事

以上のように、AI にできない仕事は、人間の専門性や感性、創造性、コミュニケーション能力、クリエイティブな問題解決力など、人間独自の能力が必要とされるものが多くあります。」



という答えがでました。AI が AI の目線で人間についてコメントしているのが少し面白く感じましたが、AI がネット上にある様々な考え方から導き出した回答ですので、一般的な考え方ととらえられますし、おおよそ同意できる内容と思いました。

今年度の学校教育方針（学校 HP 参照）にある本校の児童に育てたい力の中に、コミュニケーション能力や問題解決力を挙げています。これらは非認知能力と呼ばれ、ペーパーテストのように点数化できないものですが、これからは数値化できない力が重要であると考えられます。これらの力を伸ばしていくためには、学校の授業も変えていく必要がでてきます。学校教育方針の内容が実現するよう、教職員全員で取り組んでいきたいと思います。